

| | | | | |
|--------------|--------|-----|-----|-----|
| 關西五縣下組合 | 昭和六年十月 | 四一七 | 四一七 | 三二 |
| 大阪連地下聯合會 | 同 六年一月 | 四六〇 | 四一五 | 八一〇 |
| 兵庫縣聯合會 | | | | |
| 阪神金屬労働組合 | 昭和五年六月 | 九九二 | 九四七 | 七一六 |
| 阪神自由労働組合 | 同 五年八月 | 一五〇 | 一五〇 | 三三 |
| 阪神合同労働組合 | 同 五年六月 | 三七〇 | 三七〇 | 四三 |
| 高砂紙業労働組合(友會) | 大正七年八月 | 七〇七 | 六二二 | 一 |
| 藤州合同労働組合 | 昭和四年七月 | 四一九 | 三九五 | 四二二 |
| 神戸一般労働組合 | 同 五年六月 | 二〇〇 | 二〇〇 | 五二二 |
| 同 金屬労働組合 | 同 五年六月 | 三六〇 | 三六〇 | 七二四 |
| 同 ゴム労働組合 | 同 五年七月 | 一七〇 | 一七〇 | 六二七 |
| 中國聯合會 | | | | |
| 福山労働組合 | 昭和三年二月 | 五三三 | 四二七 | 五二二 |
| 中國礦物労働組合 | 同 六年八月 | 三五六 | 三五六 | 三二二 |
| 廣島日出労働組合 | 同 三年五月 | 二二三 | 二二三 | 一一二 |
| 高知縣聯合會 | | | | |
| 高知印刷労働組合 | 昭和六年六月 | 一五三 | 一四八 | 一一四 |

| | | | | |
|-------------|---------|-----|-----|-----|
| 高知紙業労働組合 | 同 五年十一月 | 五二二 | 三三〇 | 四九 |
| 海商合同労働組合 | 同 四年七月 | 二九三 | 二八五 | 二二 |
| 九州聯合會 | | | | |
| 九州合同労働組合 | 昭和四年九月 | 二九〇 | 二八〇 | 六四〇 |
| 西部礦山労働組合 | 同 五年二月 | 三〇一 | 二八五 | 四二 |
| 諫早一般労働組合 | 大正七年九月 | 一三〇 | 一三〇 | 二二 |
| 長崎交通労働組合 | 同 十五年七月 | 一一二 | 一一三 | 一 |
| 長崎合同労働組合 | 同 十五年十月 | 一七八 | 一七八 | 二三 |
| 九州礦山労働者組合 | 昭和六年四月 | 八〇 | 八〇 | 五 |
| 北海道聯合會 | | | | |
| 小樽港労働組合 | 同 六年九月 | 三三〇 | 三三〇 | 三 |
| 小樽一般労働組合 | 同 五年十月 | 一三〇 | 一七〇 | 五 |
| 直屬組合 | | | | |
| 下關合同労働組合 | 昭和五年二月 | 五〇 | 五〇 | 二二 |
| 和歌山一般木村労働組合 | 同 六年三月 | 二三五 | 二三五 | 一 |
| 豐後厚田從業員組合 | 同 五年四月 | 一三五 | 一三五 | 五 |
| 中部炭礦同人組合 | 同 六年八月 | 三五〇 | 三五〇 | 六六 |
| 長門労働者同上會 | 同 四年八月 | 二二〇 | 二二〇 | 三 |

東北合同労働組合 同 二年三月 八〇 八〇 一 二
 大谷石村労働組合 同 三年五月 二五〇 二五〇 一 一

合計 九聯合會 七十一組合 四八、二二九人
 組合員 內女 七四三六

三、政治部

一、全國大衆黨の成立

昨年の同盟創立當時にあつては、我が同盟加盟組合の支持政黨には、全國民衆黨、日本大衆黨、京都労働大衆黨などの諸政黨があつたので、創立大會は特に『新同盟は支持政黨を一にすべきであるが、大會の動かすべからざる決議をもつてするのではなく、全民、大衆、京都労働などの支持政黨の合同に努むる』旨の決定をしてゐた。其後この我等の要望は大衆黨、全民黨、統一協議會の三黨合同によつて、昨年七月二十日に全國大衆黨と結成なつて實現したので、翌七月二十一日開催せられた同盟第二回中央委員會は全國大衆黨支持を決定した。

二、勞農議會開争

昨年十一月二日、全國大衆黨の主催の下に、勞農議會が東京協同會館、大阪中之島公會堂に於て夫々開催せられた。この開争は左記の黨本部指令の下に招集せられた。

勞農議會指令

一、全國勞農議會——昭和五年十一月一日を期し全國勞農議會を東京及び大阪に召集す
 (イ) 各府縣聯合の代表員自らは返つて通知す
 (ロ) 議題

- 一、失卒反對開争の件
- 一、自主的労働組合法、小作法獲得開争の件
- 一、生活防衛開争の件
- 一、官制暴行開争の件
- 一、濱口内閣打倒の件

右の申渡暴行の件は各府縣代表に於て暴行の事實を調査報告し文書提出する準備をせよ
 (ロ) 三重、滋賀、福井以西は大阪に召集しそれ以外は東京に召集し福井代表は大阪に、關西代表を東京に出席せしむる。

二、全國勞農議會までの各地開争要綱
 (イ) 第一期 十月十日—十九日 此間支部を中心に市町村に於て勞農議會(或ひは労働者大會又は農民大會、失業者大會町民大會等)を開催すること、本部よりはピラ、ボスターを縣聯合會を通じて支部に頒布す

(ロ) 第二期 十月二十日—十一月一日迄——各支部の勞農議會開争を府縣中心地に集中し各府縣勞農議會(勞農大會、府縣民大會)を開催し府縣知事に對する大衆的要請を行ふこと。此の開争を全国的に聯つてこそ資本地主を脅威する。全國勞農議會の成果を収むる爲め、最も勇敢に効率的に開争を組織し展開せよ。

三、全國勞農大衆黨の成立
 わが同盟はこの開争を支持し地方組合は代議員を送り、東京、大阪の聯合會は大衆黨員によつて大會開争を敢行した。